



荒天のなかの海上神幸・みあれ祭



秋季大祭齋行

平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

一年に一度、宗像三女神が御揃いになり、御神威新たに齋行される秋季大祭。昨年十二月の遷座祭後初の、本殿での秋の例祭であった。また今年には拝殿に「三十六歌仙図扁額」(複製品)が掲げられ、今までと違う雰囲気での御祭りが齋行された。また連日多くの参拝者で賑わい、夜間まで拍手の音が境内に響いていた。

十月一日 みあれ祭(海上・陸上神幸)
主基地方風俗舞奉奏

午前八時三十分、降雨のなか大島・中津宮にて出御祭を齋行。中津宮と中津宮の御神璽を神輿に奉安、心配された雨も出御の時刻には小降りになり、予定通り大島小学校鼓笛隊の先導のもと大島港まで陸上神幸が行われ、



辺津宮入御

余滴

わが日本は「豊葦原の千五百秋の瑞穂の国」、毎年秋になると稲穂の波打つ豊かなよい国と言われてきた▼今月二十三日「勤労感謝の日」は「勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日」と昭和二十三年に法律に定められた国民の祝日である。しかし本来は新嘗祭の祭日であり、宮中においては天皇陛下御自らが育てられたその年の新穀を、天照大神を始めとする天神地祇にお供えし、国家・国民の平安と繁栄をお祈りになる収穫祭である。神宮を始め全国の神社でも執り行われ、祈年祭と対置される重儀である▼その起源は稲作開始の弥生時代に遡るとも謂われ、日本書紀にも「天照大神の新嘗しめす時」とみえる。神道における祭祀は稲作農耕に基づくものが多く関係性も深い。江戸期までは国民の大半が農業従事者であったことからこの祭日は国民にとって重要な儀式であった▼職業の多様化や実際の収穫期と祭日の時期の差もあり、祭り本来の意味は忘れられつつあるが、単に勤労に感謝するだけの日ではない▼日本人にとって米・稲は単なる食糧ではない。稲作は、わが国の和・礼・勤労などの国民性や文化を形成してきた、極めて重要な意義を持っている。この太古からの祭りをその意義と共に確実に継承していかなばならない。(長)

神具・装束・授与品



装束店
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

授与品店
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



高宮神祭備祭 多くの参列者のなか奉奏された悠久舞

沖・中両宮の神輿を御座船に御載せした。
午前九時二十分、大島港を出港。悪天候により例年

に比べ少ない約五十隻の漁船が二隻の御座船に続いて、船団を形成、波高のなか、しぶきをあげながら玄界灘を

勇壮に神幸した。約一時間をかけ神湊港沖に到着すると、晴れ間が広がり各供奉船が御座船の周りを周回し宗像七浦の各母港へと帰港した。

沖中の二隻の御座船は、辺津宮の御神

一年ぶりに三女神はお揃いになられ、神湊港にて駐輦祭が行われた。荒天による陸上神幸中止の為、神湊港から辺津宮第一鳥居までは御座車による神幸を行い、少雨なるも多くの参拝者に迎えられ本殿へ入御し辺津宮入御祭を斎行。葦津宮司が祝詞を奏上し、主基地方風俗舞が厳かに奉奏された。

十月二日 例祭

流鏝馬神事・翁舞奉奏

二日は、一日の天気と打って変わって、秋晴れの空模様となる。そのなか、八時より神門前にて流鏝馬神事の奉納があり、地上八メートルの的に騎手が矢を射ると参拝者から拍手が沸きあがっていた。



例祭(2日) 祝詞奏上

十一時からの例祭では福岡県神社庁宗像支部の神職奉幣使、宮地嶽神

主なる奉仕者御芳名 (敬称略・祭典の順)

宗像大社氏子会

◎海上神幸奉仕

海洋神事奉賛会(会長・中村忠彦)

◎沖津宮御座船 盛漁丸 (鐘崎) 船長 灘辺 肇男

◎中津宮御座船 第十八勇正丸 (大島) 船長 原 大樹

◎沖津宮先導船 第三隈丸 (神湊) 船長 吉武 義成

◎中津宮先導船 大黒丸 (地ノ島) 船長 奥 佳寛

◎花火船 生漁丸 (大島) 船長 上野 美美

◎報道船 みたけ (大島) 船長 遠藤 英樹

◎陸上神幸奉仕

◎御座車 西久大運輸倉庫(株) (株)新出光

◎先導車 宗像観光協会

◎宗像観光協会 宗像地区交通安全協会

◎宗像市消防団第十一分団

◎供奉車 宗像市消防団第十二分団

◎大島鼓笛隊奉仕 玄海ホテル旅館組合

◎大島小学校児童 大島小学校児童



玄海中学生による浦安舞



氏子奉幣使 高向敏治氏(右)

◎御長手棒持・提灯行列

玄海小・中学校生

◎陸上神幸実行委員会

玄海地区コミュニティ運営協議会

津加計志神社総代、宗像・沖ノ島世界遺産市民の会、玄海地区交通安全協会、神湊盆踊り保存会、宗像市消防団、宗像市、宗像大社氏子青年会

◎主基地方風俗舞

〔舞方〕 松井徳一郎、松井 実

〔歌方〕 森 勝紀、吉田 光利

中野 正徳、中野 久志

井上 光生、深田 誠

◎流鏝馬神事

世話役 宮木 貞彦

奉仕者 眞武 孝行、河野 暁

木下 淳

◎氏子奉幣使

高向 敏治(宗像市)

◎翁舞 喜多流 梅津忠弘師以下同門下中

◎浦安舞 宮本あゆな、三苦 愛弥

吉武 麻帆、濱田 歩美

◎献茶祭

南坊流・二代洗心庵・瀧口宗芳 同社中

◎高宮神祭備祭奉仕 宗像大社氏子青年会

社献幣使、氏子奉幣使にも参向頂き齋行。喜多流による「翁舞」も奉奏された。

十月三日 三日祭

浦安舞奉奏

十一時より三日祭齋行。地元の玄海中学校の女生徒四名による浦安舞が奉奏された。祭典終了後、奉仕

神職は高宮、第二宮、第三宮、宗像護国神社に別れ、秋の御祭りを齋行した。

十四時からは南坊流・二代目洗心庵・瀧口宗芳氏以下同社中による献茶祭が齋行され、見事な御点前が披露された。

「高宮神奈備祭」悠久舞奉奏

午後六時、秋季大祭の無事齋行を感謝し、更なる神威の無窮を祈念する高宮神奈備祭を高宮祭場にて齋行。一年を掛けて温習した当大社巫女が、大祭を締め括るに相応しく見事に悠久の舞を奉奏すると、浄間の祭場に集まった参列者達は感動の様子で、三日間に亘る秋季大祭が盛大に幕を閉じた。

ここに秋季大祭に御奉仕頂いた皆様方に書面を以って厚く御礼申し上げます。



大島小学校鼓笛隊 (大島港)



主基地方風俗舞 (1日)

デューク更家氏 奉納ウォーキング

秋季大祭最終日の十月三日、ウォーキングトレナー

として全国的に著名なデューク更家氏によってウォーキングが奉納された。

氏は、気功や運動生理学、武道、ヨガ等の要素を取り入れた独自のウォーキング理論「デュークズウォーキング」を確立し、美と健康に即効性があるとして女性を中心に支持されている。現在では、これを更に昇華させ「歩く」ことを通じて内面の豊かさを育むことを提唱されている。

当日は、約百名の参加者のもと清明殿にてセミナーを行った後、本殿にて正式参拝、引き続き奉納を行った。奉納には軽妙な話術にひかれた一般参拝者も

多数参加した。この奉納には、「正しく歩いて神に意乗り(いのり)を捧げ、大地を元氣にし、日本が安寧に、人々が健康になることを願う」という氏の思いがある。奈良の薬師寺、東京の日枝神社でも同様な奉納は行われている。



第20回
出光興産株式会社 人事部教育課
中堅社員研修所感

去る十月七、十日までの四日間、第二十回中堅社員研修の宗像大社研修を実施させて頂きました。本研修



には日本国内各事業所の社員二十九名、ベトナム、台湾の駐在員各一名の総勢三十一名が参加しました。

本研修は、「日常生活と」

研修の開始にあたり、宗像大社で研修をさせて頂くことを奉告し、研修が実り多きものになることを祈願する研修開始奉告祭を拝殿で執り行いました。その後、神社祭式作法を体験し葦津宮司よりご講話を頂く等に

離れた神域に身を置くことで感性を高めること、「創業者出光佐三が多大な影響を受け、経営の原点とした日本の伝統文化に触れ、その思いを感じ取ること」の二つを目的に毎年実施しております。

研修の開始にあたり、宗像大社で研修をさせて頂くことを奉告し、研修が実り多きものになることを祈願する研修開始奉告祭を拝殿で執り行いました。その後、神社祭式作法を体験し葦津宮司よりご講話を頂く等に

より神道への理解を深めると共に、辺津宮や中津宮を見学し、禊祓成などを実際に体験することで、出光佐三店主が大切にされてきた日本人のこのころの一端に触れることができました。また、神宝館や海の道むなな館の見学、神職の皆様との班別討議や店主好の班別討議や店主好の鶏すきを囲んだ会食を実施させて頂き、研修生は太古から今に繋がる宗像大社の歴史の奥深さを改めて感じました。



神湊海岸での禊祓成

特に葦津宮司からは、「生き続ける神道の心とかたち」と題して、沖ノ島に関する歴史や神道の考え方等について、DVD映像や文献紹介を交えつつ、網羅的かつ深みある講話を頂戴したことで、宗像大社の由緒や神道に関する理解が深まり、それ以降の研修がより一層有意義なものとなりました。

研修生からは「講話や神職様との班別討議を通じ、店主、そして日本人が大切にしてきた考え方の原点に触れ、素直に受け入れることができた。」「鎮魂や禊

など、大変意義深い体験ができた。」等の感想が寄せられました。

研修生に対して懇切丁寧なご指導をして頂いた宗像大社のご協力のおかげで、穏やかな秋晴れの下、予定どおりに研修を進めることができ、当初の目的は十分に達成致しました。ご協力ご支援頂きました関係者の皆様には心より御礼申し上げます。

最後に、宗像大社の益々のご繁栄をお祈り申し上げ、研修の所感とさせて頂きま



神職との討議



研修終了。出発式



高宮祭場清掃奉仕

時満ちて道ひらく

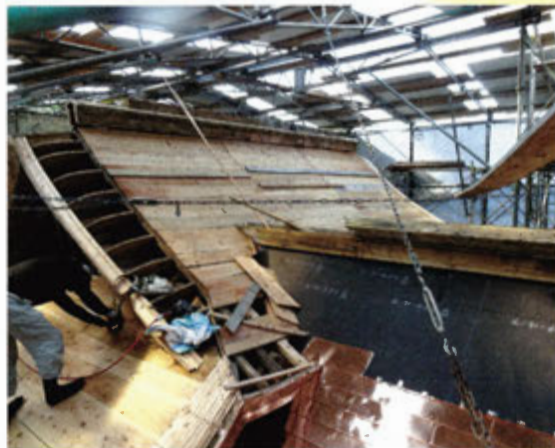
沖津宮遙拝所

復旧工事完了に向けて

沖津宮遙拝所の災害復旧工事は、銅板屋根葺替えが進み、同時に土壁の修復も進められている。部分解体してみると壁内部をはじめ、至るところにだいぶ水が染み込んでおり、想定以上の修繕の必要性が生じている。



解体される土壁



銅板葺替えが進む屋根

造営日記 ⑳

福岡県氏子青年協議会 神宮新穀献供米 稲刈り神事

十月十二日、宗像大社神田にて福岡県氏子青年協議会神宮新穀献供米事業稲刈り神事が斎行され、当大社氏子青年会員十四名をはじめ県内各神社氏子青年会員と子供たち総勢三十二名が参加した。

当日十一時三十分、神田

協にて神職が稲と参列者を御祓いた後、鎌を手に参加者全員で神田に進み、稲刈りを開始。毎年参加されている方も多く、慣れた手付きで進み、神事は無事終了した。

この神事は毎年各神社持



ち回りで伊勢神宮に初穂(新穀米)を奉献すべく行われている。

御造営奉賛者御芳名

(平成二十七年八、九月) (順不同・敬称略)

宗像市	三〇〇,〇〇〇円	葦津	宗像市	石井 通
宗像市		杉山	古賀市	石井あゆみ
宗像市		渡邊	宗像市	石田 遥花
宗像市		宗像市	北九州市	衛藤 愛里
宗像市	一〇〇,〇〇〇円	老岐	宗像市	岡田華代子
宗像市		井上	宗像市	権田 行子
宗像市		井上	北九州市	佐野瀬里菜
宗像市		大塚	宗像市	澤崎 有希
宗像市		御床	宗像市	篠原あゆみ
宗像市		神島	宗像市	陣内 楓
遠賀町		佐々木大治	宗像市	竹本あづさ
藤沢市		関根 寿樹	宗像市	竹本百合子
宗像市		長友 貞治	岡垣町	田中 志保
宗像市		中原 裕生	福津市	永嶋 康子
宗像市		松林 拓	宗像市	花田 純子
宗像市	宗像露店商組合	吉武 誠礼	福津市	福嶋真貴子
宗像市	八〇,〇〇〇円	中村 太郎	宗像市	福永 愛
福岡市		石津 典秀	宗像市	古野 愛美
宗像市	五〇,〇〇〇円	岩佐 光二	宗像市	望月佑里子
宗像市		奥宮 種男	新宮町	森 千尋
宗像市		倉本 勇	世田谷区	山下 英子
宗像市		黒神 直豊	宗像市	山下 奈美
宗像市		鈴木 祥裕	宗像市	吉田 達子
宗像市		花田みどり	宗像市	吉武 律子
宗像市		日高 庸介	茨木市	占部 博
宗像市		船越 裕介	横 浜	大和田全彦
宗像市		宗像 崇史	新 潟	岡田 功
宗像市		吉田 弘	福 島	学校法人福島文化学園
宗像市		吉田 雅国	長崎市	日下 将孝
宗像市		力丸 哲也	筑紫野市	佐藤英敏・博子
宗像市		力丸 正輝	下関市	前田 弘樹
宗像市	三〇〇,〇〇〇円	阿部 和代	北九州市	三井 俊幸
			品川区	宮野 晃

千代田区	(株)ムナウエイ宗像	慶輔
六、〇〇〇円	秋山 邦宏	
五、〇〇〇円	須恵町(有)案浦製作所	案浦 弘
守山市	磯田 好美	
北九州市	伊藤 義浩	
宗像市	(株)KYW	
代表取締役	今 義剛	
福岡市	入江 尚代	
大津市	上野奈津美	
出雲市	江角 彰則	
渋谷区	ソングバード	
岡山市	大竹山昌廣	
岡山市	岡崎 恵子	
岡山市	岡崎祐有子	
昔食用(有)モトマルスルシヤパン	勝沼 慧衣	
大野城市	川本 和子	
出雲市	菊池 幸介	
熊本市	久保 裕治	
福岡市	小樋 有仁	
船橋市	齋藤 義治	
宇土市	坂本 輝子	
県成田市	島田 毅	
宗像市	白石 陽	
港区	高橋真人・奈美	
北九州市	武石 恭典	
下松市	武居 正修	
福岡市	辻原 志信	
伊勢市	出口 浩哉	
小笠原村	長門 克典	
福岡市	西田 勝士	
福岡市	藤原 裕二	
佐賀市	松田進・裕子	

第45回 西日本菊花大会のご案内

毎年、11月1日から開催される菊花展。九州各県、山口の菊花愛好家から出品された様々な菊の花約3000鉢が境内に展示され、西日本一の規模を誇ります。

- ◆会 期 平成27年11月2日(月)～22日(日)
- ◆時 間 終 日
- ◆会 場 宗像大社境内
- ◆拝観料 無 料



松山市	小笠原敏夫
中関市	奥田 敦子
深谷市	門倉 正史
北九州市	金子 哲也
横浜市	金子 美和
杉戸町	川島 厚史
大野城市	川本 良一
福岡市	黒木 祥司
芦屋町	齋藤 竜太
鹿児島市	迫 千恵美
柏 市	澤田 昌之
広島市	城山 昇
東大阪市	新道 信秀
川口市	鈴木久美子
横浜市	鈴木 英伸
大東市	竹田 律子
阿蘇市	立石 佳江
福岡市	田中 尚子
山口市	田中 博之
川崎市	田中 裕介
さいたま市	鶴田 英樹

玉名市	徳永 八恵
高松市	富岡乃利子
可児市	中嶋 幸三
大田区	長竹みずえ
深谷市	中山 裕介
久留米市	野田 勇
長浜市	
(株)山久	
大井町	平山 正樹
福岡市	福馬 弥生
福岡市	藤田 和彦
粕屋町	牧原 源二
北九州市	柘本 浩文
太宰府市	益山 コウ
杉並区	松本 義幸
福岡市	光安 孝子
大阪府	村瀬 君夫
練馬区	茂木 常行
宗像市	森 真樹代
今治市	矢野寿津枝
武蔵野市	山田真由美
始良市	豊留 治代

(続)

浜の奇物

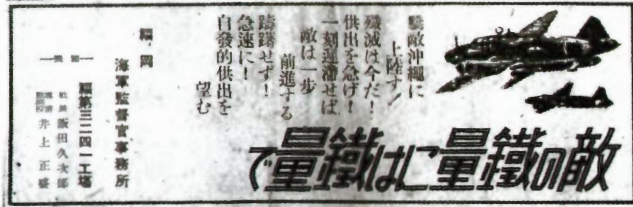
304

いしただし



直方市の牛島英俊氏が「植木町に墜落したB29と捕虜搭乗員」と題して西日本文化(西日本文化協会、二〇一一年八月号)に掲載されている。B29撃墜については、市史や町史でも記載は少ないが、市民にとって突然降って湧く恐怖でもある。牛島英俊氏の実父(明治四十五年生)が墜落を目撃、小さい時からよく聞かされていたという。墜落の目撃談を多くとり、巨大なB29墜落の様子を復元している。

昭和二十年三月二十七日午前中にB29一六機が長崎、大村、福岡(太刀洗)に来襲爆撃を行い、同日、午後より一〇二機が八幡に来襲、関門海峡の



機雷投下を行い、八幡市内の爆撃が行われた。夜間爆撃では日本軍は対空砲火と山口県小月飛行場から屠龍戦闘機が迎撃。(この時の空中戦の様子は樫田勇氏の「B29撃墜記、光人社」に詳しい) B29一機は日本軍の砲火を受けて被弾、煙と炎に包まれて落ちていく。巨大爆撃機・空の要塞である。牛島氏の父満氏は「騒ぎ立てる人声で戸外に出た。人々が指す方向を見上げると、巨大な飛行機が、これまで見たこともない低空飛行していった。機体は煙と炎に包まれており、追いつがる日本機から曳光弾が発射されると、炎は一段

と激しく吹き出した。B29は市街地上空を南から北に通過してやがて町並みのむこうに百万燭光もあるような巨大な火柱があがった。映画館のむこうに落ちた」と、人々は北に走ったが、実際は三km先、隣町の鞍手郡植木町に墜落していた。(牛島前掲書) 牛島英俊氏は多くの目撃談話を聞きとって撃墜の状況を刻明に記している。直方市神正町の香月良則(昭和八年生)は消防団員が自宅となりの火見櫓で「飛行機が落ちる」と叫ぶのを見て見上げると巨大な飛行機が火を噴きつつ頭上を通過した。植木の南方六・五kmの直方市上境では占部雅生(昭和八年生)が防空壕の外をうかがっているとき、火だるまの飛行機が落ちてゆくのが見えた。

大きな墜落音に、壕内の家族は頭をかかえて突つ伏したが、外では雅生が「アメリカの飛行機が落ちた、バンザイ」と叫んでいた。上境の北に隣接する永満寺では篠原義一(昭和十年生)が「飛行機が燃えている」との声で戸外に出ると、北の空に三条の探照灯に捉えられたB29が見えた。墜落までの十五分間ほどの間、何度も旋回しながら、ゆっくりと高度を下げていった。地元の植木町では、隣組の二十人ほどが川船に乗って山田川用水路の暗渠に避難していた。本田六子(大正十二年生)は大きな落下音とともに、暗渠の外が昼間のように明るくなったのを見た。

野口セツ子(大正十三年生)は防空壕に入らずに辻の自宅にいたが、大きな衝撃音とともに、東の方が明るくなり、その明かりで中島橋が見えた。また対岸の木屋瀬(八幡西区)の福田材木店付近では、墜落機が巻き上げた大量の土砂が夕立のような音をたてて降った。月明かりの中を降下するパラシュートは、地上から目撃された。直方市の感田室木の田んぼと、知古の二ヶ所であった。そこには四、五十人の群衆が輪になって降下してくる「鬼畜米兵」を待ちかまえていた。群衆は一斉に襲いかかり、四方から棒や拳で殴りかかってきたが、幸いなことに誰も刃物を持っていなかったのと、米兵は防弾チョッキとライフベストを着用していたので身を守った。暴行は続けられ、米兵はこのまま死ぬかと思ったとき、長身で体格のよい制服警官が駆けつけて群衆を制止しようとした。激高した彼らは警官にも襲いかかり、警官は米兵をかばって何度も殴られた。やつのことで米兵と群衆から引き離れた警官は米兵に手錠をかけた。警官は顔から血を流していたが、後年米兵はそのふるまいは職務を淡々と遂行する敵意のないもので、深く感謝したと回想している。

第六五一回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



北九州市 八幡西区 豊田 光子

志願せし兄が狭間に戻るやも人づてに聞く戦後七十年
志願して戦いの場に臨んだ作者の兄、戦死されたのか、
評 その最期の様子を人づてに聞いた作者と読んだ。大切
な家族の死の様子を知るのには幾年たつても切ない。

宗像市 宮田 山本 静子

いただきし小松氏の笑顔うかべつつ「むなかつた」を読む九十六歳
良い友人をお持ちの作者。年齢を詠み込まれているが、歌の若々しさ
と毎月の投稿の意欲に感服する。初句は「下されし」三句(思いつつ)に。

宗像市 武丸 白土 凌一

十六夜の川辺に咲きし彼岸花一花折りて心和まん

あかるい月の光に誘われて散歩に出かけた作者。月光
の下でも赤く見える彼岸花を折りとり満ち足りた気分
で戻ったことだろう。四句以下へ折れば心和めり。

福津市 若木台 山崎 公俊

ミコさんを辞書に探せば巫女ありて神さまに心ちかきひとらし
正確には巫女は神に仕え、あるいは神意をうかがい神
託を告げる人だが、それを「神様に心ちかき人」とする
作者のとらえ方が魅力的で、たのしい一首になっている。

宗像市 多禮 早川 祥三

丹精を込めていよいよ明日出荷熟知されてたぶどうの悪夢
季節感がある素材のだが、内容が読み取れず、困った。
上の句からは無事に出荷できるようなのだが、下の句で分
からなくなる。(へぶどうの悪夢)が、読者にも分かると良い。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

モンペ穿き薙刀を持つ戦時下の生徒を語る米寿の教師
戦時中に大人だった人たちが今では少なくなつた。米寿
の方でも終戦を十代で迎えている。戦時下で若い教師だつ
た人の、モンペで薙刀を持つ生徒たちの記憶は貴重だ。

宗像市 池田 森 龍子

両岸を埋め尽し咲く彼岸花日暮れの川はおどろおどろに
彼岸花が岸を埋めるまでに咲いた日暮れの川と読むと、
評 それだけでこの世ならぬものを想像する。結句はすこ
し抑えへおどろを流るくくらいに。

宗像市 田久 巻 桔梗

つゆ明けの昼の納骨さるすべり紅くもだして墓によりそふ
納骨を寂しく思う作者だろう。百日紅を擬人化し、墓
を守っているように詠む。黙す、寄り添うの二つの動
詞が擬人的に使われているが、黙すは省く工夫を。

宗像市 日の里 大和美由紀

草むらのちちろ虫聞き山畑へ朝露光る野道を歩く
秋の早朝の爽やかさがよく表われて快い。ちちろ虫、朝露、山畑な
どの具体が効いて、足を濡らす朝露の感触までが想像できる歌だ。

◆選者詠

悲しみに不意におそはる亡き母の好みし饅頭ひとくち食べて
ああだれかふさぎくれぬか立ちあがる度によいしよと唱へる口を

第六二四回

俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一
名月を眺め涼まん庭先や
宗像市 多禮 早川 祥三
水琴の在所たずねる玉の汗

七五三詣のご案内



宗像大神様に生を受けてから今日まで
無事に成長出来たことを感謝し将来の
ご加護を祈願する人生儀礼です。

- ◆年齢 3歳の男女児、5歳の男児、7歳の女児
- ◆期間 11月末迄
- ◆初穂料 1人 5,000円
- ◆授与品 御守、御幣、千歳飴 ほか

11月祭事暦

- 1日 月次祭 午前10時～ 高宮祭、第二宮・第三宮祭 宗像護国神社 月命日祭
- 午前11時～ 総社祭、浦安舞奉奏
- 3日 明治祭 午前10時～
- 15日 月次祭 併 七五三祭 午前10時～ 総社祭・高宮祭、第二宮・第三宮祭
- 23日 新嘗祭 午前11時～ 豊栄舞奉奏

編集後記

ラグビーワールドカップ、日本代表が南アフリカに歴史的勝利!例えれば戦車にマシンガンで突っ込んで勝つようなものである...。勝ち点の関係で予選突破は叶わなかったが、国内のみならず世界中のラグビーファンを熱狂させ、また賞賛を浴び、ラグビーをかじった自分も眠れぬ夜を楽しませてもらった▼日本代表ジャージに咲く桜のエンブレム。由来は「正々堂々と戦え。敗れるときは美しく敗れる。武士の魂を象徴する桜は美しく咲く花にあるのではなく、美しく散るところにあることを知らなければならぬ」であるらしい▼外国人選手を含めた日本代表選手が「君が代」をきちんと歌う姿、試合中タツクルする姿はこの由来を体現しているように見えた▼日本の国花は「桜と菊」。十一月、境内は西日本菊花大会、菊の花であふれます。桜のあとは高貴な菊をお楽しみ下さい。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒八一一一三五〇五 福岡県宗像市田島二二三一
電話 (〇九四〇)六二二二二二(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円